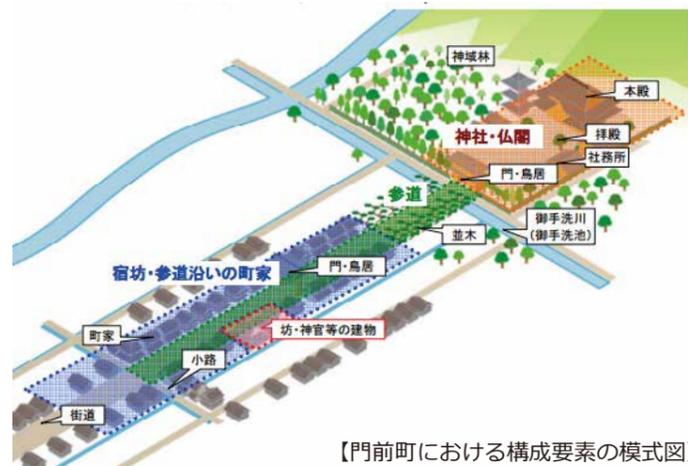




【大正 14 年 座光寺商店街図】

【門前町の一般的概要】

・著名な寺院や神社への参詣客を迎える街として発展した都市を示す。
 門前までの参道があり、参道沿いに参詣客を相手にする宿坊、商工業者が集住した町屋が立地する沿道型の街並みを構成している。
 構成要素として、山門・宿坊・御師・鳥居・灯籠・参道並木等が特徴的である。明治初期における神仏分離令による廃仏希釈の断行や御師制度の廃止により、門前町としての様相が現存している箇所は多くない。長野市は、善光寺の門前町・宿場町から県庁所在地になった唯一の例である。



【門前町における構成要素の模式図】

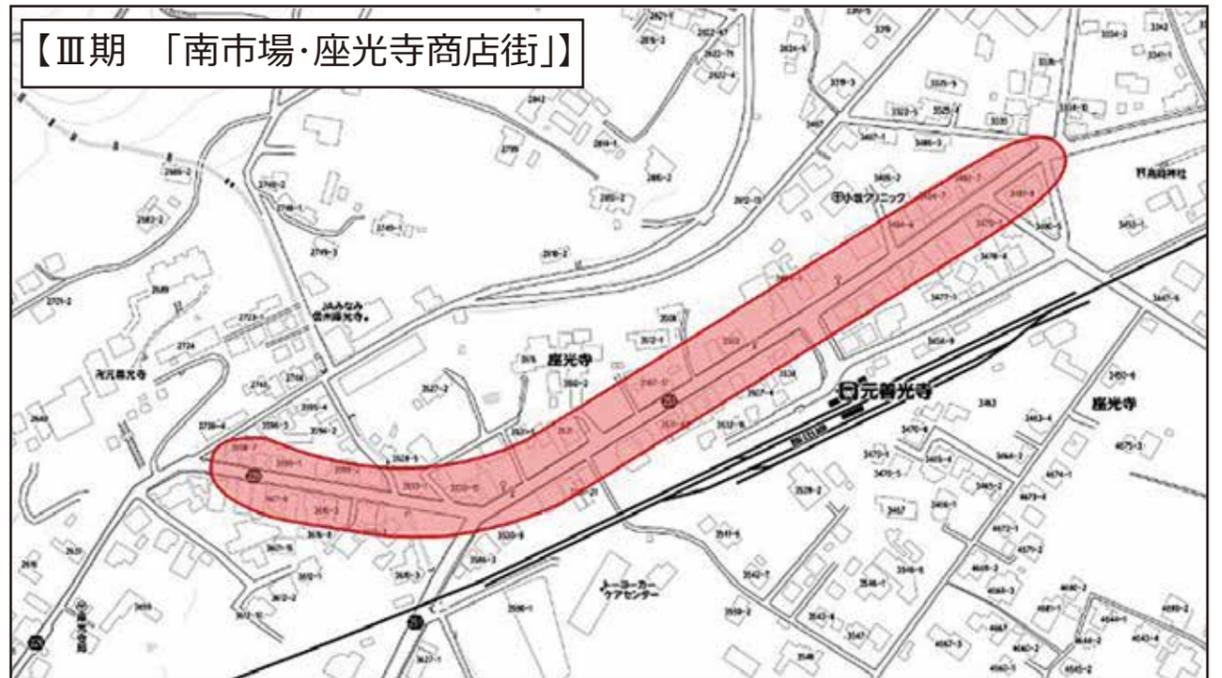
【座光寺商店街・発展時の特徴】

- ・江戸後期、如来寺参詣による「市場商店街」が誕生から、明治後期の「北市場商店街」、元善光寺駅開業に伴う「駅前商店街」と、道路・鉄道の交通体系変遷に乗じて、急速に発展してきた。
- ・Ⅰ～Ⅱ期の繁栄を示す商店は解体・撤去されたものが大半で、残存数が少ない。Ⅲ期商店街は繁栄が著しく、大正・昭和初期年代の面影を残す商店は少ない。大半が昭和年代に改修されたと推測される。
- ・「駅前商店街」の特徴は、一般的な「門前町」と異なり、**地域を主体とした多様な商店により構成される点**にある。宿坊・店舗を中心とした商店街ではなく、「**循環型経済**」地域の消費を主体とした、**多種多様な商店**により構成される。



元善光寺開業により栄えた「南市場商店街」は、現存している商店が多い。ただ繁栄が著しかった為、改修・改築も進み、大正・昭和の面影を残す商店は少ない

【Ⅲ期 「南市場・座光寺商店街」



【Ⅲ期；駅前商店街】大正末期～昭和後期（昭和 60 年代）

- ・1916 年（大正 5 年）座光寺郵便局が開局。製糸工場共信社が操業開始。
- ・1923 年（大正 12 年）8 月に伊那電気鉄道・元善光寺駅が開業する。
- ・1926 年（昭和元年）劇場衆楽園が建設され菊人形飾りが開催される。座光寺音頭、祇園飾りが行われる。
- ・1927 年（昭和 2 年）市場の店を含め、90 軒以上の賑やかな商店街が成立する。
- ・1984 年（昭和 59 年）国道 153 号線が座光寺バイパスの開通により、商店街の中心はバイパスに移る。現在、20 軒程度に減少する。



大正末座光寺・飯沼の精工業内地圖書板 大正 14 年当時の営業状況がよくわかる。

北原百貨店 昭和 25 年



酒屋の初荷 (巨勢酒店) 大正 12 年



元善光寺駅と桜並木 昭和 12 年頃 南信バス (銀バス) と三共タクシー



【南市場・座光寺商店街現況風景】

